



平成 29 年 2 月 7 日

各位

会 社 名 株式会社ディー・ディー・エス
代 表 者 代表取締役社長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード番号 3782)
問 合 せ 先 取締役管理担当 貞方 渉
電 話 番 号 0 5 2 - 9 5 5 - 5 7 2 0
(URL <http://www.dds.co.jp>)

「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載解消についてのお知らせ

当社は、本日公表の「平成 28 年 12 月期 決算短信」(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)において、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社グループは、過去継続した営業損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上していたことから、収益性の向上について改善途上の段階であることに鑑み、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在すると認識してまいりました。

この状況を解消すべく、収益性と財務体質の両面から経営改善に取り組んでまいりました。

収益性においては、売上向上のために組織体制を営業中心に改革するとともに、新たにパートナー制度を構築することで営業戦略の全般的な見直しを行いました。昨年末時点で76社の有力な代理店ネットワークを構築し、他社製品と連携した販路開拓を推進することで新規顧客の獲得機会が大幅に増加し、生体認証を中心とした多要素認証セキュリティへの旺盛な需要とも相まって関連売上が倍増しました。また新規事業分野では、近年の指紋認証機能搭載型スマートフォン普及による市場の急拡大に対応し、生体認証の国際的標準規格であるFIDOの普及活動およびFIDO規格に準拠した自社製品・サービスであるマガタマプラットフォームの開発販売の推進などを行ってまいりました。費用については、全般的な経費の見直しによるコスト削減に加え、FIDO関連の研究開発投資の一巡などにより、昨年度と比して販管費の17%減少を実現しました。

これらの結果、平成28年12月期は売上高が昨年対比97.6%増の1,196百万円となり、営業利益、経常利益、純利益すべての数字が黒字に転換いたしました。

財務体質においては、投資有価証券および保有不動産の売却による含み益の実現化に加え、長期未払金の支払を完了し、名実ともに無借金経営を実現いたしました。当12月期末の流動資産は1,248百万円を超え、財務健全性を表す主要指標においても、流動比率451.7%、自己資本比率72.2%、有利子負債依存度0%と大幅に改善いたしました。

今後におきましても、バイオ事業における収益の安定的伸長が黒字化の定着に寄与すること、マガタマ事業におけるプラットフォーム関連売上の通増や国内外でのライセンスビジネスの収益化など利益率の高い新規事業分野での成長が見込まれることから、現時点で継続企業の前提に関する重要事象または状況は存在しないものと判断し、当通期決算短信において、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消することといたしました。

株主をはじめとするステークホルダーの皆様には大変ご心配をおかけしましたが、今後も持続的な成長と企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

以 上